

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0291000016		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ碓ヶ関		
所在地	青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1		
自己評価作成日	平成29年10月	評価結果市町村受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成29年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>緑豊かな自然環境の中、広い敷地は日課の苑庭散歩や色々な行事等、多目的に使用することができます。 また、同じ建物内には放課後児童クラブ、隣接には姉妹法人の保育園があり、地域に根ざした施設として、児童や園児、地域の方々と、行事等の参加で交流に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の特性を活かして、重度化や終末期の対応が行われ、利用者が最期まで安心して過ごすことができる体制となっている。 地域との関わりをとっても大切に考えており、地域住民と利用者は馴染みの関係を継続している。また、ホームからも地域に貢献し、地域からも協力が得られる体制を構築している。 職員は利用者の思い、家族の思いを大切にし、希望が叶えられるように支援しており、利用者と職員共に、穏やかで楽しく生活している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が共同で作った理念を、毎朝の申し送り時に唱和して共有し、実践につなげている。理念の中に、地域密着が汲み取れるように文書化し、意識向上に努めている。	利用者を地域の中で共に支え合いながら暮らしていけるよう、積極的に地域住民との交流を図っており、管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。また、理念を毎朝唱和する等、職員間で共有する取り組みも行われ、日々、理念を反映させたサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近隣の商店へ出かけて買い物をしながら、地域の人達との交流を図っている。	介護予防教室を行ったり、小学生の職場体験や車椅子体験等にも協力し、地域住民との積極的な交流に努めている。また、地域で行事があった際は、ホームの園庭を駐車場として開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の体験学習やボランティアの受け入れ、地域サロン開催等を通じて、認知症の人の理解や支援方法を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での出席者の意見や要望、アドバイスを職員間で共有し、改善や実践に活かしている。	2ヶ月に1回行う運営推進会議では、メンバーが広く意見を出し合い、活発な会議内容となっている。また、自己評価への取り組みや外部評価の結果も報告し、サービスの質の向上のために意見をいただき、活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の状況を詳しく報告し、実情を理解していただきながら、困っている事や気になる事を相談したり、確認する等、協力関係を築いている。	運営推進会議には市役所の担当職員が参加しており、常日頃から相談したり、情報交換ができる関係を築いている。また、自己評価及び外部評価結果、目標達成計画を提出し、報告している他、広報誌も日々の取り組みを伝える機会として配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や学習会を通じて理解し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠等はず、安全で、自由に行き来できるようにしている。	マニュアルを作成している他、身体拘束の内容や弊害について、ホーム内外の研修にて理解を深め、全職員で、身体拘束を行わないとの共通理解のもと、実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や学習会を通じて理解し、入居者様の様子や変化には常に注意を払い、気づいた事は報告して記録に残し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会を通じて理解し、必要な時には関係者と相談しながら、いつでも活動できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と運営規程を説明し、理解・納得いただいた上で、署名・捺印をしていただき、一部を保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、面会時や電話での相談受け付け、家族アンケートの実施を通して、要望や意見を伺い、職員間で話し合い、改善や実践に反映させている。	利用者には日々寄り添い、些細な事でも話せる関係を築いている。また、玄関に意見箱を設置している他、ホーム内外の相談苦情窓口をホーム内に掲示し、入居の際の重要事項説明書に明記・説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、法人から職員へ個人調書が配布され、職員は法人や事業所への要望や意見を記入し、職員の意見を聞く機会を設けている。	ホームでは、日頃から意見や提案を出しやすいように、管理者と職員とのコミュニケーションを大切に考えている。また、意見や提案があった際は、迅速に話し合い、反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得、職員個々の努力、実績を把握し、就業規則や給与規程に基づいて整備しながら、職員がやりがいや向上心を持てる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成しており、職員の要望を聞きながら、公平に受講できるように配慮し、資質向上に努めている。また、資格取得に向けての助成金制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修への参加の他、社会福祉協議会やその他の事業所とネットワークを作り、情報交換を通して、サービスの質の向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から、施設見学や本人と面会する機会を設け、不安や要望を把握して、コミュニケーションを図りながら、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望、不安に思っている事を受け止めており、連絡や報告を密にすることを約束し、家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話し合い、必要としているサービスを検討し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側の立場になり、できる事を見つけて、自立支援を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会を呼びかけ、家族との交流の場を設けており、家族の意見も反映させながら、理解と協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用していた馴染みの商店や理容室・美容室等を入居後も継続して利用したり、友人・知人の面会や外出も気軽にできるように支援している。	入居時のアセスメントにて把握し、馴染みの場所へ出かけたり、これまで関わってきた人との交流を継続できるよう、電話や手紙のやりとりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持てるように、職員が間に入り、コミュニケーションが円滑に図れるように支援している。また、できる人ができない人を支えることが、自然に行われており、職員はさりげなく支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、これまでの関係性が、その後の相談や支援につながるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話を傾聴し、日常的な会話から、本人の思いや願いの把握に努めると共に、生活歴や家族、関係者からの情報を基に、本人の希望に沿えるように努めている。	アセスメントや家族・関係者からの情報を参考に、利用者との日々の会話や表情から、本人の思いや希望を把握するように努めている。また、意思表示が難しい利用者については、本人の視点に立って全職員で話し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族とコミュニケーションを図り、生活歴や生活環境の把握に努め、関係者との連絡を密に取りながら、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において、気配りや心配りをして、一人ひとりのできる事や好きな事、1日の過ごし方、リズム等、現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成時には、本人の意向を詳しく聞いたり、家族や関係者の意見を反映させながら、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時はアセスメントは勿論、利用者の関係者からも情報収集し、本人や家族の希望を確認の上、作成している。また、職員間で十分な話し合いを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体状態等を個別に記録し、いつでも読めるようにしている。月1回のカンファレンスで、全職員で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族の状況を把握し、その時々に必要なサービスの提供や支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭等の地域行事への参加・見学を行っている他、地域住民のボランティアも受け入れられている。地域の消防署や警察とも連携を取り、安全に暮らしていけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って受診している。受診時には、症状改善につながるよう、詳細な報告を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関が24時間の対応を行っており、少しの状態変化の際も往診に来てくれて、利用者や家族が安心できる環境となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し、体調の報告や相談を行っている。体調に変化がある時は、24時間体制で連絡・相談、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に情報提供を行い、入退院について、病院関係者や家族と相談・協力し、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について、入居時に、重要事項説明書や終末期の看取り事前確認書を通じて説明し、かかりつけ医と共に取り組んでいる。	看取りに関する指針等で、ホームの方針を明確にしており、入居時から、本人や家族と話し合い、希望を確認しながら、意向に沿った支援に努めている。状態変化時には再度、希望や意向を確認する話し合いを行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に普通救命講習を受講している他、マニュアルを作成・掲示して、すぐに対応できるように、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震からの火災や夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練を行っている。災害時には、近隣の協力員・消防・警察・行政からも協力が得られるように働きかけている。	火災、地震、水害等のマニュアルを整備しており、年2回、利用者と職員と一緒に、夜間も想定した訓練を行っている。また、訓練には地域住民も参加しており、災害発生時に備えて、地域住民との協力体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快を与えるような言動に注意すると共に、トイレ介助やオムツ交換、着替え時には十分に配慮している。また、自尊心やプライバシーを損ねないように、適切な言葉かけや対応を心がけている。	利用者が自分らしく、生き生きと暮らしていけるように、職員は穏やかな口調で、人生の先輩として、尊敬の念を込めた声かけを行っている。また、個人情報の取り扱いに関する研修を行い、プライバシーに配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、思いや希望を察知して、入居者様本位で選択、自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はあるが、無理に勧めていない。一人ひとりのペースで、自由に、思いのままに生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの美容院の予約や化粧品の注文の支援、洋服の好きな物を選んでいただく等、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下拵えや食器拭き、テーブル・トレイ拭きやおしぼりたたみ等、一人ひとりが役割を持ち、毎日、お手伝いをさせていただいている。献立に苦手なものがある場合は、代替品で提供している。	利用者のできる範囲で、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にしている。また、家庭的な雰囲気のもと、会話を楽しみながら、食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。水分が摂りづらい方には、トロミをつけて提供している。チェック表により、食事摂取量・水分摂取量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄を、個々の状態や自立度に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。個々の排泄能力に応じて、声がけをしながら、トイレでの排泄を支援している。	パターンを把握することで、自立に向けた適切な排泄支援を行っている。また、誘導時や失禁時の対応は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して、さりげなく、速やかに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝・昼の乳製品提供や確実な水分補給、軽体操や歩行運動を行っている他、下剤の調整により、定期的に排泄ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの入浴習慣や好みを把握し、入浴剤等で気分を変えていただく等、工夫している。入浴を嫌がる場合は無理に勧めず、日を改めて入浴をしていただいている。	利用者個々の状況に合わせて、入浴や清拭、足浴、シャワー浴等での対応も行っており、職員は利用者の羞恥心や負担感を理解し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や希望に応じて、ベッドの位置や高さを変えたり、照明を調整する等、工夫しながら、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し、変更については、連絡ノートで全職員に確実に伝達している。また、服薬服用を確認し、服用後の経過と変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や要望により、ある程度決まった役割がある。季節の行事を取り入れながら、好みのドラマ視聴やDVD鑑賞等、楽しみながら生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を伺い、ドライブや買い物に出かけ、気分転換を図っている。また、家族との外出や外泊の機会が持てるよう、働きかけている。	日常の会話の中から、希望する外出先や馴染みの場所を把握し、できる限り、利用者の希望が叶えられるよう、外出支援に取り組んでいる。また、利用者の気分転換となるよう、近隣への散歩を日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に説明し、預り証、承諾証を取り交わし、自身で管理できる方は所持し、困難な方は職員が対応して、お金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や家族から電話が来た時には対応している。家族が遠方にいる入居者様には、手紙のやり取りでの交流を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファやテーブルを設置し、ゆっくりと、思い思いに過ごせるようにしている。室内の温度・湿度にも気を配り、季節感のある花や飾り付けを工夫している。	ホーム内には、その季節毎の飾り付けを行い、利用者が季節の移り変わりを感じることができるようになっている。また、職員の話し方は穏やかで、テレビや音楽等の音量も適度なものとなっており、利用者が心地良く過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭、ホール、廊下には座る場所があり、自由に寛げるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物等、馴染みのある物を持って来ていただき、安心して、居心地良く過ごせるように支援している。	馴染みの物が持ち込まれ、利用者それぞれに合った居室となっている。ベット等の家具は利用者に合わせて配置し、利用者にとって、安心して過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで対応し、廊下・居室には手すりを設置して、安全確保に努めている。各居室にはトイレ、洗面台が設置され、自立した生活が送れるように配慮している。		